

ネオニコ農薬、使わないで コメ農家に呼び掛けを 民間団体が県へ要請書



渡辺課長に要請書を手
渡す山浦代表（右）

カメムシ防除などに使われ
るネオニコチノイド系農薬が
環境や人体に悪影響を及ぼす
として、全国の消費者団体な
どでつくる「米の検査規格の
見直しを求める会」（代表・

山浦康明日本消費者連盟共同
代表）は3日、県に対し、生
産者に同農薬を使用しないよ
う促すことを求める要請書を
提出した。

欧州などでは近年、ネオニ
コチノイド系農薬の影響でミ
ツバチが減少。生態系への影
響が懸念されるとし、欧州連
合（EU）は同農薬の使用を
禁止している。日本でも専門
家がミツバチの減少と同農薬
の関連性を指摘している。

コメは外観や整粒歩合に応
じた等級に格付けられ、カメ
ムシによる着色粒の比率が高
いと等級が下がる。JA全農

は、2等米60キ当たりが1等
米に比べ600円、3等米は
1600円それぞれ低い。

同会は等級間の価格差が大
きいため、生産者が農薬を過
剰散布していると指摘。同会
会員で大潟村の農家今野茂樹
さん（60）は「色彩選別機で着
色粒を取り除けば品質は変わ
らない。カメムシ防除のため
農薬を散布する必要性はな
い」と話す。

山浦代表と今野さんが秋
田市の秋田地方総合庁舎を訪
れ、▽価格差を適正化するよ
うJAなどに求める▽カメム
シの発生予報は情報提供にと
ども、農薬の徹底散布を推奨
しないなどを要請した。

渡辺兵衛県水田総合利用課
長は「民間取引なので価格差
について指導する立場にない
が、指摘の趣旨は理解できる。
農家には農薬の適正使用を呼
び掛けていく」と述べた。

（高橋広幸）

あきたが集荷の際に農家へ支
払う概算金（2013年産米）